

熱帯の有用材 (25)

緒 方 健

アブラ (Abura) 学名: *Mitragyna ciliata* Aubrev. et Pellegr. ;
M. stipulosa (DC.) Kuntze (Syn. *Hallea*
ciliata (Aubr. et Pell.) Leroy ;
H. stipulata (DC.) Leroy) (アカネ科)

Mitragyna 属は約 12 種からなり、4 種が熱帯アフリカに、他は熱帯アジアにある。このうちアブラと呼ばれるのは熱帯アフリカの *M. ciliata* および *M. stipulosa* の 2 種で、木材を利用する上では両者は区別されない。リベリアからアンゴラにいたる熱帯西アフリカに広く分布するほか、南はローデシア、東はウガンダにまでみられる。湿地林の樹木で（とくに *M. ciliata*）、しばしばかたまって生育する。しかし、年中水につかっているような場所には生育しない。木材取引の呼称としてはナイジェリア、ガボンなどで用いられるアブラのほかに Bahia（コートディヴォアール）、Subaha（ガーナ）、Nzingu（ウガンダ）などがある。

樹木の形状：高さ 30～35（～45）m、直径 80～100 cm になるが、一般に大高木は少なく、熱帯降雨林の高木としてはやや小さい。常緑。樹幹はほぼ通直で、20 m 程度の枝下高がある。樹幹基部はまっすぐかやや根張りがあるが、板根は発達しない。湿地の樹木なので、気根ができることがある。樹皮は黄褐色～灰褐色で、不規則に薄く剥げる。樹皮は厚く、内樹皮は桃褐色～淡黄褐色で、空気につれて暗色になる。葉は対生、単葉、革質で、長さ 10～40（～65）cm、幅 8～33（～44）cm の広楕円形。全縁で、縁はやや波うつ。葉柄は長さ 1.5～4 cm。托葉をもち、長さ 2～10 cm、幅 1～7 cm の楕円形で、縦に平行脈がある。花序は径 1.5～2 cm の頭状花序で、数個が散形につく。花柄は 2～7 cm。個々の花は長さ 3～4 mm の筒状で、基部は約 15 の小さい苞片に包まれる。萼は短い。花冠は 5～7 裂し、白色で、毛が多い。雄ずいは 5～7 で、花糸は花冠の内側に固着する。雌ずいは長さ 1 cm あり、花時には花冠からつき出る。果序は径 1.5～2.3 cm で、長さ 5～8 mm の多数のさく果からなる。種子は長さ約 1.5 mm、扁平な楕円形で、両端に翼がある。*M. ciliata* と *M. stipulosa* はきわめて近く、萼の形や有毛度、托葉や葉の毛の状態が異なっている程度で、両者の中間のものもみられるという。*M. ciliata* は典型的な湿地林の樹木であるが、*M. stipulosa* はそれよりやや乾いた森林にも生育する。

木材の特徴：辺心材の区別は不明で淡褐色～淡黄褐色を示し、部分的に淡桃色を帯びることがある。光沢は乏しく、肌目はやや精。木理はほぼ通直か軽く交錯し、全体として単調な外観をもつ。気乾比重は 0.50（0.46～0.63）。顕微鏡の特徴としては、道管は孤立するものと 2～4 個複合するものからなり、分布数は 24～30（～40）/mm²。孤立

OGATA, Ken: Useful Timbers in the Tropics (25) Abura
 農林水産省森林総合研究所

◎熱帯林業講座◎

管孔の最大径は 130~150 (~170) μm 。道管の穿孔は単穿孔。道管相互壁孔は交互壁孔で、直径 5~7 μm 、ヴェスチャード壁孔だが、小さいので光顕ではわかりにくい。道管放射組織間壁孔は道管相互壁孔に似る。放射組織は異性 I~II 型で、両端部は大型の 1~数細胞（ときにはそれ以上）からなり、最大列は個体により 2~3 列または 2~4 列、最大高は 1,400~2,000 μm 。軸方向柔組織は単列の、不規則に波打った網目状をなすが、細いのでルーペでは認めにくい。繊維は繊維状仮道管で、有縁壁孔がある。繊維長は 2~2.5~3.1 mm あり、広葉樹としてはひじょうに長い。放射組織にシリカを含むが、多くない。

木材の加工性としては、乾燥は速く、割れ、反りも少ない。強度は比重相当であり大きくなく、曲げ加工には適さない。屋外での耐久性は低く、またヒラタキクイの被害を受けやすい。心材への防腐剤注入はやや困難。切削は容易。接着、塗装性も問題なく、単板にも剥きやすい。用途としては家具の部材（引き出しの側板、縁、かまちなど）、屋内造作材、軽量床板など。合板にはそれに適する大径のものが少ない。

アカネ科は約 500 属 6,000 種からなる大きな科で、世界の熱帯を中心に広く分布する。木本のものが多いが、その割に木材樹種として知られているものがあまりない。これは、この科の樹木は中高木どまりで、大径、大高木になるものが少ないこと、また木理、色調が一般に単調で、銘木的な樹種がないことなどによるであろう。

この科では、アブラのほかに熱帯アフリカの樹種として比較的知られているものにオペペ (Opepe : *Nauclea diderrichii* (De Willd.) Merr.) があるので、簡単に説明しておく。オペペはアカネ科としては最大級の樹木で、樹高 50 m、直径 1.5 m に達する。ギニアからコンゴにかけての熱帯西アフリカの降雨林地帯に広く分布し、さらに東はウガンダにまで認められる。木材の商業名としてはナイジェリア地方のオペペのほかに、Bilinga (カメルーン)、Kusia (ガーナ)、Badi (コートディヴォアール) などがある。

木材は辺材淡黄色、心材は新鮮時にはきわめて鮮やかな黄色または橙褐色を示すが、これは *Nauclea*, *Neonauclea* 属の木材によくみられる著しい特徴である。古い材面では鮮やかさは失われるが、強い黄褐色~橙褐色の色合いは残る。やや光沢がある。木理は交錯し、肌目はやや粗。気乾比重 0.74 (0.70~0.80)。シリカは含まない。

乾燥性は、割れや反りに注意する必要があるが、比重の大きい割には良く、乾燥後の寸法安定性は高い。耐久性はかなりあり、強度も比重相当に大きい。大径長尺材が得られることもあり、港湾用構造材などに適するほか、オーク材の代用としてフローリング、屋外・屋内造作用としても用いられるなかなかの良材である。

成長の早い陽樹で、伐採跡地、道路沿い、放置された焼畑跡地などに一斉に更新することがある。この点は東南アジアにある同じアカネ科の *Kelampayan* (*Anthocephalus chinensis* Walp.) と同様で、早生造林樹種として用いられる可能性がある。毎年結実し、種子が小さく豊富に得られることも利点である。